

平成 25 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

これまでの普通科総合選択制の取組みを総合学科へと発展させることをめざし、地域・中学校・保護者・中学生からのより信頼度の高い公立高校を創り出す。総合学科高校の特色を活かし、各系列での選択科目での学習を通じて各生徒の興味、関心に応じた幅広い知識、能力、技術を習得させるとともに、全教職員が学校の教育方針に基づいて、キャリア教育、生徒指導、人権教育を密接に連携させてきめ細かい指導、支援を行い、一人ひとりの進路実現をめざす。

- 必修科目の学習を通じて基礎学力を身につけるとともに、各自の興味関心に応じた多様な選択科目の学習を通じて、自立した社会人として生涯にわたって必要とされるさまざまな能力、思考力および豊かな感性を習得するなど、幅広い学力を身につけた生徒を育成する。
- ドリカム(総合的な学習の時間)や「産業社会と人間」を中心とするきめ細かいキャリア教育や、実習を通じてさまざまな職業につく多様なモデル像と出会うことで、将来に希望を持ち、自己の具体的なキャリアビジョンを設定して、その進路目標の実現に向けて努力する生徒を育成する。
- 各系列での選択科目の学習を通じて、さまざまな社会の課題の本質を理解し、その解決に向けて具体的に行動するとともに、それらの活動を通じて自尊感情や社会的有用感が育まれた生徒を育成する。同時に一人ひとりの進路希望の実現をサポートする。

2 中期的目標

1 確かな学力への取組み

柔軟な教育課程を設定できる総合学科高校の設置をめざし、現在の取組みを更に発展させ、多様な進路希望に応じた教育課程を構築する。

ア 各系列に設定予定の選択科目については生徒の選択状況や学校教育自己診断の結果等に基づき、既設科目の改廃や新たな科目設置を積極的に実施する。

イ 生徒の学習意欲を向上させるため、双方向性に富んだ魅力的でわかりやすい授業づくりを進める。生徒による授業アンケート等により不断に教員が授業改善に努めるとともに、指導教諭を核として組織的な授業改善を進め、教員間での相互授業見学、相互評価、及び他校教員との交流を含めた研究授業、公開授業を実施する。

*生徒向け学校教育自己診断における授業満足度を24年度の62%から平成27年度には80%にする。

2 安全で安心な学校づくり

人権教育と生徒指導の一層の充実を図る。

ア 人権教育と生徒指導の連携を一層充実させることで、すべての生徒が安心して生活できる学校づくりをすすめる。その基盤として自分を大切にするとともに、自立心・規範意識を育てることにより、基本的生活習慣を確立させる。

イ 一方、生徒指導上の問題にたいしては、すべての教職員が適切かつ毅然とした指導を行うように指導方法について教職員の共通認識を深め、チームワークを活かして対応する。また、不登校の兆候の見られる生徒や発達障がい等の個別の支援が必要な生徒については、個別の指導計画を作成し、様々な機会にカウンセリングマインドをもって対応し、中学校、保護者や外部の専門機関等と連携しながら状況改善に努める。

*具体的目標として、3年間で遅刻件数、懲戒件数、不登校生徒数の20%の減少をめざす。

3 地域連携、小中高連携の強化

ア これまで福井高校が培ってきた小中高連携、地域連携のネットワークを一層発展させ地域の小中学校、地域住民にとって敷居の低い「開かれた学校」づくりを推進し、地元に基づいた学校づくりを進める。

イ そのため、新たな学校協議会及び学校教育自己診断を活用するなど、保護者や地域住民のニーズを反映した学校改善に取り組む。同時に学校からの情報発信を積極的に進める。さらに「豊川教育コミュニティネット」の一員として、他校の教職員とのネットワークを一層強化する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成24年12月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導等】</p> <p>・「授業はわかりやすく楽しい」がやっと50%を超えた状態であり「教え方に工夫」も3年間で10%アップしてはいるが、60%に満たない状態である。「双方向性」と「考える授業」を追及しているが、具体的な取り組みが必要と思われる。</p> <p>【生徒指導等】</p> <p>・「生活背景を理解した指導」「チームとしての取り組み」を追及している。「協力して指導に当たっている」が70%を超えたのは成果として見ていいと思われる。逆に「基本的習慣の確立」がやや下がってきている点は要注意である。</p> <p>・「人の生き方について考える機会がある」が3年間で10%以上増えた点も成果である。</p> <p>【学校運営】</p> <p>・プライバシーにかかわる項目が70%に満たない状態であり、課題として取り組む必要が出ている。</p> <p>・支援学校との交流も50%未満が続いている。地の利もあるので学校全体として取り組んでいきたい。</p>	<p>第1回(7/11)</p> <p>○授業力向上に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 講義型の授業からワークショップ型の授業への転換が必要だ。小学校ではかなり進んでいるが高校はまだまだだと思ふ。小・中学校の取り組みに学ぶところは大きいのではないかな。 <p>○地域連携の必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の行事への参加などより一層、地域に愛される学校をめざしてほしい。 キャリア教育の視点を持って、高大連携、小中高連携を推進してほしい。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 自転車事故防止に向け近隣の危険地域の確認など安全指導を進めてほしい。 前後期入試への対応で中学校とのさらなる連携を進める必要がある。 <p>第2回(12/12)</p> <p>○地域連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の方を対象にした学校内での交流(市民講座や交流イベント)を企画してはどうか 防災避難区域としての役割を果たせないだろうか <p>第3回(2/12)</p> <p>○地域連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> 茨木市で小中合同授業研などに取り組んでいる。将来的には保幼小中高が連携する総合的なキャリア教育の中で福井高校も大きな役割を果たしてほしい。 <p>○総合学科について</p> <ul style="list-style-type: none"> 科目の開設において「進路実現」を大きなポイントにしてほしい。 高齢化社会を迎える中、「命」の教育とともに「死」をテーマとしたものも必要。 地域の素晴らしい人材をもっと活用すべきである。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>確かな学力への取組み</p>	<p>(1) 双方向性に富んだ魅力的でわかりやすい授業 ア、研究授業・職員研修 イ、授業アンケートの活用 (2) 多様な学習機会の提供 ア、国際理解教育 イ、地域の施設での実習 ウ、外部機関と連携した土曜講習 エ、基礎力のフォローアップ</p>	<p>(1) ア、指導教諭による師範授業と研究協議・若手教員を中心に公開授業を行い相互に見学を行う。 イ、生徒から授業アンケートを行い授業改善に活用する。 (2) ア、韓国語の授業、韓国の姉妹校との交流、アメリカの姉妹校との交流の推進。近隣の大学の留学生との交流。 イ、保育所、幼稚園、老人施設、福祉施設などでの実習を通じ人にやさしい人間教育の充実。 ウ、3年生対象で土曜日に予備校講師による実力養成講座の実施。 エ、定期考査前に補習を実施して基礎学力のアップを図る。 (3) 上記の取組みを進めながら、総合学科への移行に向け教育課程を再編成する。</p>	<p>(1) ア、模範授業は年度当初に実施。新採教員は全員が研究授業をする。 イ、年2回実施し分かりやすさ70%以上 (2) ア、韓国とは毎年相互交流、アメリカとは2年に1回相互交流を実施し、エリア授業などの国際理解教育と併せて国際交流、国際感覚の育成に努める。 イ、保育実習、介護実習、ボランティアを体験年間20回実施し、福祉マインドの育成、自尊感情の育成を図る。 エ、各定期考査に実施し学力不振の留年者の減少 (3) 系列の設定と充実</p>	<p>(1) ア・予定通り実施し、新採教員の研究授業は多くの教員が見学し協議に参加した。また、授業公開期間を年2回設定し、授業改善に役立てた。(○) イ、授業アンケートの結果は1回目65.7、2回目67であった。エリア授業の満足度は85%以上あり、これをどう受け継いでいくかが、今後の大きな課題となる。(△) (2) ア、韓国スタディツアーは予定通り実施し、次年度はオーストラリアとの交流を予定している。エリア授業等と関連付け国際感覚の育成に努めている。(○) イ、保育所、福祉施設等での実習は予定通り実施し、今年も体育祭・文化祭での交流も実現した。生徒の感想文、エリア満足度等からも福祉マインドが着実に育っていることがわかる。(◎) ウ、今年はや備校側の都合で、校内で行ってきたが、3学期から別の外部講師で再開できている。(○) エ、各考査ごとに個別対応も含めて実施した。(○) (3) 現在のエリアを基礎に再編統合して6つの系列に整理した。(○) 130科目をめどとした選択科目の設定に向け検討中 (○)</p>
<p>安全で安心な学校作り</p>	<p>(1) 基本的な生活習慣と規範意識の確立 ア、遅刻指導の徹底 イ、服装指導の推進 ウ、授業規律の確立 (2) 生徒相談体制の充実 ア、職員研修の実施 イ、精神科医との連携 ウ、個別の指導計画 エ、教育相談の活用の周知</p>	<p>(1) 朝の職員連絡会で生徒情報の共有を図り機動力のある生徒指導を行う。また家庭との連携を深めタイムリーな指導をする。 ア、校門での挨拶運動とメロディチャイムの活用。 イ、制服の正しい着こなしの徹底指導を行う。 ウ、各学年の担任団で授業規律の指導目標とマニュアルを作成。 (2) 個々の生徒を深く理解することを基本に教員のチームワークで生徒相談を推進する。 ア、人権保健部主催の職員研修の開催。 イ、各学期に1回、精神科医の指導を受けながらケース会議を行う。 ウ、必要に応じて個別の教育支援計画を作成する エ、広報活動などで活用しやすい環境を作る。</p>	<p>(1) ア、遅刻者の10パーセント減少 ウ、担任団を中心として全教員の共通理解を深め、指導を徹底する。 (2) ア、職員研修3回実施 イ、ケース会議3回実施 ウ、発達障害などの課題がある生徒の「個別の教育支援計画」を作成し、教科担当を含めチームで指導に当たる。</p>	<p>(1) ア 遅刻者は5%程度の減にとどまる見込み(△)放課後の学年指導などを強める必要もある。 イ、ウ 全教員で制服の着こなし、授業規律について指導目標やマニュアルを確認し、指導に当たっている。次年度以降さらなる徹底を図りたい。 (2) ア 職員研修は3回実施し、参加率、内容とも充実したものとなった。(◎) イ ケース会議は研修的な部分も入れて、3回実施した。こちらも参加率、内容とも学校の実態に即したのものとなった。(◎) ウ 「個別の教育支援計画」は支援学校の協力も得て作成しており、年度内には次年度に申し送るものが完成予定 (○)</p>
<p>地域連携、小中高連携の強化</p>	<p>(1) 地域にねざした教育の推進 (2) 人材の育成</p>	<p>(1) 互いに見学などを行い異校種の理解を深める。 ア、茨木市人権研究会・豊川教育ネット主催の公開授業や研修に参加する。 イ、小中学校に出前授業に出向き高校教育への理解を深めてもらう。 ウ、「福井高校を育てる会」の活性化 中3担任者会の復活 エ、「福井カップ」への参加者、参加種目を増やす。 (2) Yプロ(ヤングプロジェクト) ア、校長、教頭、首席、指導教諭で研修を実施。 イ、茨木市内府立高校若手研修を各校輪番で実施。</p>	<p>(1) ア、研究発表1回、公開授業参加を若手を中心に1回参加 イ、5校以上に出前授業実施 ウ、育てる会5回以上開催 エ、参加者10パーセントアップ (2) ア、年間8回実施し、経験年数の少ない教員の幅広い力量の育成を図る。 イ、年間2回実施</p>	<p>(1) ア 茨人研、進保協で研究発表3回、うち1回は生徒の発表を含んだもの。公開授業にも参加し、小学校や定時制の授業参観も行った。(◎) イ 小中で6回の出前授業を実施、小学校では生徒が中心となって実施 (○) ウ 育てる会は5回開催し、中高の連携強化につながっている。(○) エ 参加中学校も増えさらに増加した。(○) (3) ア 年間14回実施、経験年数の少ない教員の育成につながっている。(◎) イ 年間2回実施、1回目は外部から講師を招いた。参加者数、内容とも大変充実したものとなっている。(◎)</p>